

第百二十三回楽々俳句会(ちば)

令和七年九月十一日(木) 晴

会場 活動センター 十時集合

席題 案山子

久武

1 戒名を付けて上げたき捨案山子 成子

久

2 校舎隅へのへのもへ字案山子立つ 成子

武

1 案山子立つサイクリングの列が行く 成子

久

3 2 金賞は古古米五キロ案山子展 武彦

武

1 1 沿線の無言劇めくかかしかな 育子

久

1 道端のかかしと話す親子かな 育子

久

3 駅を出て案山子迎える過疎の村 育子

久

2 ひと役を案山子も担ふ米不足 恵美子

久

1 落人の遺伝受け継ぐ案山子かな 武彦

久

1 旅人を笑顔にさせる案山子かな 信雄

久

1 案山子立つ唐草もようの新しき 今日子

武

剥ぎ取られ棒となりたる案山子かな 久登

武

農終はり爺から孫の案山子かな 久登

久

1 1 山田なか背に十七の大案山子 宣子

久

背番号十七の大案山子かな 具体的に

久

1 顔直し土手に一列案山子立つ 久登

久

2 母と子の向日葵迷路車椅子 宣子

久

2 そつと咲く将門神社白桔梗 粹歩

久

2 鳥海山見上げるもへの字案山子かな 静代

案山子立ち鳥海山見上ぐへのへのもへじ ちようかい

2 今はまだ案山子の立ちし資料館 粹歩

2 梯子酒あてに一品秋刀魚なり 静代

1 三十坪案山子十体雀一羽 信雄

1 風すきる草花にまぎれ秋の蝶 宣子

1 行く秋や人形供養青い目も 恵美子

1 古びても見守る案山子陰ながら 信雄

1 炎暑なお人は黙して通り行く 豊隆

1 役終へて猶ほほゑみの捨案山子 豊隆

読み手にやさしい字が良い

風立ちぬ林間駆ける白きシャツ

ぷちぷちと日日緋の満つる柘榴かな

緋の満つる宝石箱の柘榴開く

廃線に連れられ迷子の案山子かな

秋遍路成田街道影法師

鳥海や秋水溢れ豊作なり

煙曳くコンピナートの秋落暉

失せしもののひよいと現る盆の月

参加者 成子・育子・恵美子・宣子・今日子・静代

豊隆・粹歩・武彦・久登

投句 ・ 信雄 欠席 弘子・園子・・洋子・利太郎・ミチ子

次回予定

十月九日(木) 十時活動センター 兼題「通草・どんぐり」

十一月十七日(月) 十時活動センター 兼題「山眠る」

十二月十一日(木) 十時活動センター 兼題「熊」